

と私たちも迎えに行けないのです。」

◎この二月、麻疹をこじらせて腎盂炎併発、二週間の入院、あの大雪の日は病状も峠だった。今迄学校を休まないと威張っていた彼女もとうとう一ヶ月半も休んでしまった。「教員の子は麻疹をこじらせませぬ。子供の病気より親は自分の休むことを心配するから子供も落ち着いて寝ていられますよ。」と医者に説教された。熱にうなされながら彼女はこういった。「ママ、夏休みにハシカにならなくてゴメンネ。」

◎北教組の婦人部大会、会場を埋めた働く仲間たちの苦勞や頑張り、私よりもっともっと多くの問題を抱えている。私がとにかく十年やってこられたのも、自分だけではないという支えがあったから。学生時代に頭の中で考えていたことが生活を通して身についた感じ。「この道は長いけど歩きながらいこう……」の心境で今後も迷いながらも働き続けるであります。

◎「ママは活火山ね。」「どうして」「だって先生がよく怒る人は活火山だって。そうするとパパは休火山、私は死火山。」

娘の心は親から離れ始め、先生、友だちに傾きつつあり、私は淋しさを感じながらも、子供の成長を喜び、かつ子供に教えられ、自己を反省するこの頃です。 (6回生)

テレビディレクター雑感

前田敬子

わたくしは37年3月卒業のOG、日本テレビ教養部のディレクターです。

先日、同じ部の自他ともに許す(?)手相見の名人に「君は学者になったら良かったのに。学界はたいへんな損失をしたものだ」とおもむろに言われ、びっくりするやら、うれしいやら。そうか、そうだったのかとひとりうなずいていました。ところが、その直後地理科のクラス会で、なつかしい友人にそれを披露したところ、皆を全然本気にしてくれず一笑に附された次第。アー 残念なり、手相より、見る眼をお持ちの友達を信用するほかないのだと自分に言い聞かせて、その件は諦めることにしました。だいたい、大それた考えは起こさずに、今のように「フィルムスタート」「カメラさん、アップ、アップ、そうもっと寄って、/」なんて言っている方がよさそうな、劣等生でしたもの。

その劣等生、今でも12月になると卒論の夢を見ます。出演者がなかなか決まらず追い込まれた時、卒論の締切り前の緊迫した気持ちを思い出します。今までのとこ、卒論の時よりずっと楽に切り抜けて来ていますが。ともあれ、卒論はわたしに勉強をしたと思わせる唯一のもの。自分で見て、

調べて、考え、そしてまとめる、それはよい訓練でした。これから卒論を書くことができる方々、ほかのことはさておきこれだけはマジメにやった方がいいと思います。卒論のおかげか、おっくうがらずにすぐ人に会いに行く習慣は、今の仕事に役立っています。

マジメにやると言えば、女性がマジメに働らくためにまだまだ世の中はその素地ができていないようです。長い間に作られた男性にとって都合のよい今の世の中。わたしの仕事が美術・照明・カメラ、etc、専門職の手をわずらわさなければ何もできないためかもしれませんが、時に女であることを面倒くさく思うことがあります。とても残念なことですが、いつか、女性も仕事を持つことが普通のことになればいいなと痛感します。

この間、「小学生でさえ6年たてば追い出されるのに、一つ所に6年以上もいるなんて」と出版社の友と笑い合いました。彼女は大庭みな子が話題になっているし、女流ブームだから小説を書いたら、とど親切にハッパをかけてくれましたが、才能のなさはいかんともし難く、無理。まして手相にいくら現われていても学者は生来のなまけ者には高嶺の花。まだまだ若いつもりで、この仕事を続けて行きそうです。70年を前にテレビも大事な時に来ている現在、わたしも初心に帰って張り切らなければ、と元気がでてきました。

最後にPRを一つ、面白い話題の人をご存じでしたらお手数ながらお報らせ下さい。

(10回生)

☆ このご本は工芸社がタイプ孔版印刷で謹製

●諸先生の教材

○各教室の研究発表誌

○ゼミナール等の諸資料

○各部の機関紙誌

○大学祭のプログラム・ニュース・etc

○低廉なタイピング製版を基軸に、写植・カメラ製版・電子製版→孔版印刷・オフセット印刷・活版印刷・原色印刷等のあらゆる技術を駆使して、センスある美しい造本に努力致しております。

オフセット・
孔版印刷

工 芸 社

池袋西口近く
(959)5064